



遠藤 和信
(環)

歴史的・景観的建造物の保存と活用の努力を

問 市では、大谷石を用いた蔵などが取り壊され、年々減少している状況であり、今、対応しなければ歴史的・景観的資源がなくなってしまう、まちの魅力が大幅に下がってしまう。

大谷石蔵などの古い歴史的・景観的建造物などを再生するには、建築基準法の適用除外を可能とする制度の創設が不可欠と考える。

歴史的・景観的建造物について、歴史的資源として、文化的景観形成する重要な位置付けとし、後世に残す努力をしようと考えているのか、それらの保存と活用面でのどのように考えているのか。

答 市では14年度に、文化財保護条例を改正し、従来の指定文化財制度に加え、独自の認定基準である「宇都宮市認定建造物制度」を創設し、文化的価値の高い建造物の保存と活用を図ってきた。

文化財保護条例の対象とはならない大谷石建造物などのうち、魅力的なまちなみを形成するものについては、景観資源として重要と認識しているが、これらを建築基準法の適用除外とするためには、地震や火災に対する安全性の確保など課題があり、その保存と活用があり方について今後検討していく。



▲大谷石蔵を使った店舗

その他の質問項目

- ①財政の健全化 ②国の不交付団体3倍増方針 ③高度情報化社会への対応 ④広報・広聴の充実 ⑤市庁舎駐車場の有料化でバスへのICカード導入 ⑥待機児童対策 ⑦今後の水道事業 ⑧各種選挙の投票率の向上と経費縮減



藤井 弘一
(統)

教育委員会の改革に取り組むべき

問 教育委員会のあり方について聞く。

①教育委員会制度のあり方について、市長や教育長、学校長をはじめ、有識者、保護者などの教育関係者が一堂に会して徹底討論する「市民会議」を制定してはどうか。

②教育委員会を取り巻く問題について、第3者が分析し、事業仕分けを行い、問題発生未然防止の対策を総括することについて見解は。

答 ①市民会議の制定については、教育の振興に向けて、市民も含め、教育関係者が一堂に会して、教育について議論を交わすことは、意義のあるものと考えており、参

考にしていきたい。なお、教育委員会制度のあり方は、現在、中央教育審議会で議論されており、その動向を見守っていく。

②地域住民の意向を反映した教育行政を行うには、教育委員会の中だけではなく、外部意見を取り入れることは必要だと認識している。

教育委員会の点検・評価制度により、外部評価委員の知見を活用し、教育委員会の活動や施策について評価・見直しを実施するほか、教育における諸問題についても必要に応じて外部意見を聞きながら対応している。

今後も、市民との懇談会の充実など、より地域住民の意向が反映されるよう工夫しながら、教育行政の推進に努めていく。



▲意見交換会の様子

その他の質問項目

- ①LRTの推進 ②教育行政



荒川 恒男
(共産党)

社会保障制度改善の市への考えは

問 国では社会保障制度改善のプログラム骨子を8月21日に閣議決定し、10月の臨時国会冒頭で法案提出の構えである。

この中で、要支援者へのサービス給付を介護保険の枠組みから外し、市町村の事業として移行することが検討されている。利用者も困るが、市はさらに困惑すると思われるが、現状で受け入れ体制を整備できる保証はあるのか。

また、要支援者は、支援がなければ要介護になる恐れのある方々であり、現状では専門職の方がケアに携わっているが、社会保障制度改革国民会議報告書では、NPOやボランティアを活用したサ

ービス提供を提案している。このようになった場合、これまでの介護保険と同水準のサービスについて、市では保障できるのか。

答 現在、国において要支援者に対する介護サービスの市町村への移行や、多様な受け皿の活用を想定した枠組みなどについて、社会保障審議会において検討が進められている。

現時点では、具体的な内容が示されていないことから、引き続き国の動向を注視していく。



その他の質問項目

- ①2013年参議院議員選挙比例代表開票事務 ②市斎場悠久の丘の管理運営をめぐって ③市営墓地の管理運営 ④子ども子育て支援法と本市の対応及び学童保育等の課題 ⑤LRT導入計画をめぐって